

※この面を折り返すと、裏の地図上の番号を➡が指します。 ※解説板の名称で表記しています。

**1 幌尻岳 (ポロシリ)**  567 167 640\*38 (解説板前)



ポロシリとは日高山脈の最高峰、標高2052mの幌尻岳のアイヌ語名で、大きな山を意味します。アイヌ伝承では神が住む聖なる山として祈りの対象とされ、かつては神様に遠慮して登らない山とされてきました。仮にヒグマが出ても神様に悪いから獲れないとされたほど。現在は日本百名山にも選定され、日本有数の登山スポットになりました。晴天の空気が澄んだ日は登山をせずとも神が住む山を拝めます。

**関連する平取町文化的景観解説シート**

7 ポロシリ  
15 アイヌ口承文芸の今日的継承




**2 すずらん群生地**  811 348 552\*52 (駐車場)



約15haもの広さがあるすずらん群生地。かつてこの一帯は車馬が林間放牧されている牧場でした。馬が有毒なすずらんを食べて野草を食べ、過放牧だったこともあり植生が回復することなくすずらんが残り大群落となりました。現在周囲の牧場に、「びらとり和牛」として有名な黒毛和種の肉牛が育成されています。群生地では様々なすずらの保護育成策が図られ、毎年5月末～6月初旬の「すずらん観賞会」にて一般公開されています。

**49 芽生の文化的景観とその魅力**  
**59 すずらん群生地について**




**3 オキクルミのチャシ及びムイノカ**  567 010 530\*37 (ゲート前駐車場)



沙流川の支流、額平(めかひら)川河口近くの対岸に見える景観。オキクルミのチャシとは、アイヌの文化神オキクルミカミイの夫婦が住んでいたとされる居城で、山並みの中で少し飛び出している岩山部分。ムイノカとは、妻がカムイ(神)の世界へ戻る時、アイヌモシ(人間の国)を名残惜しんで忘れていった半月形の箕(み)の形象で、山の中腹にある半月状の岩肌のことです。視点場と解説板は最終処分場の入口ゲート脇を通り抜け少し歩いた先にあります。

**60 オキクルミのチャシとムイノカ**  
**61 オキクルミ伝承にみる植物利用**




**4 沙流川流域にみるアイヌの伝統的世界観**  567 007 349\*78 (駐車場)



駐車場から数分歩き、沙流川にかかる橋上から上流を見た景観です。ここは沙流川と支流の額平(めかひら)川の合流点。アイヌは大河の分岐点をベテウコビと呼び、川の生き物(魚)が潜む大事な場所にて礼拝の対象として崇めます。川の水は上(山)から下(海)へ向かって流れますが、アイヌの伝統的な世界観では下から上へ向かう感覚。狩猟のため川や沢を通り山へ入ることや、鮭などが川を遡上することから生まれた考え方だと言われています。

**2 沙流川の語源と景観**  
**67 ベテウコビの景観**





**5 オブヌプリ**  442 829 419\*75 (カンカン2遺跡の駐車場)




にぶたに湖対岸に見える、アイヌの伝説が伝わる山。アイヌの文化神オキクルミカミイが弓矢を放ち、山肌を射抜いたという伝承があります。現在は半月形ですが、1898(明治31)年に起きた大水害以前は穴の状態だったそうです。また、夏至の前後約10日間は太陽がくぼみにすっぽり入るように沈むため、美しい自然の造形を拝みに多くの人がたが訪れます。視点場は駐車場から徒歩約3分、解説板は車で約2分のびらとり温泉ゆからにあります。

**44 オブヌプリ**  
**68 オキクルミの投げ槍伝承**






**6 二風谷コタン**  442 799 197\*55 (第1駐車場)



平取町内でアイヌ文化継承の拠点といえばここ。アイヌ文化に触れられるエリアで、2019(平成31)年4月にオープンしました。コタンとはアイヌ語で村や集落という意味。伝統的なコタンを模し、池や水路を配した芝生の周囲には復元したチセ(アイヌの伝統家屋)が並びほか、カフェやチセ風の菓屋もあります。より深く体感するなら二風谷アイヌ文化博物館や二風谷工芸館もおすすめ。さらに二風谷アイヌ匠の道を歩いて国道向かいのエリアへも足を延ばすのもおすすめします。

**9 コタン(集落)立地の歴史的連続性**  
**39 コタン(集落)の景観**

**7 二風谷の森林とアイヌ文化振興**  442 799 197\*55 (第1駐車場)



にぶたに湖右岸の山林は、かつて針葉樹と広葉樹が混在していました。江戸時代後期より伐採が始まり、近代より民有林では林業で皆伐したため針葉樹が消失して落葉広葉樹林になった一方、国有地では抜き伐りだったため古来の植生と景観が維持されています。民有林は現在町有地でイオールの森と呼ばれ、アイヌ文化の伝承継承に必要な自然素材を継続的に確保できる森づくりが行われています。視点場から見て左側がイオールの森、右が国有林です。

**24 基本的樹種構成の継承と林相の変化**  
**46 二風谷の山林をみる**




**8 旧マンロー邸**  442 769 724 (解説板前)



英国人医師ニール・ゴードンマンロー博士の旧邸宅。博士は考古学や人類学にも造詣が深く、晩年は二風谷へ移住し、アイヌの生活民俗の研究とともに医者として奉仕活動に生涯を捧げました。木造3階建てのこの洋館は住宅兼診療所でしたが、1942(昭和17)年に博士が永眠したのを記念館として保存され、現在は北海道大学の研究室として利用されています。内部見学は事前の予約が必要ですが、外観から往時の雰囲気を感じることが出来ます。

**26 並木道を歩く**  
**40 旧マンロー邸**




**9 アイヌの伝承とイオールの森**  442 768 301\*85 (二風谷ダム右岸側駐車場)



見どころはウカエロシキという親子3頭の熊の形をしていた岩。アイヌの文化神オキクルミカミイが熊を矢で射よとしたら逃げられ追いつけないため岩に変えた、という伝説があります。湖岸の森林はイオールの森と呼ばれ、アイヌ文化の伝承活動のための森づくりが行われています。残念ながら2018(平成30)年の胆振東部地震でウカエロシキの一部が崩壊。二風谷ダムの堤体の端から全貌を遠望できます。

**20 食文化の継承と森林利用**  
**43 ウカエロシキ**




**10 沙流川流域の産業景観**  442 707 063\*18 (駐車場)



目印は、1915(大正4)年に完成した沙流頭首工の跡。沙流川下流域へ農業用水を送るため沙流川から水を取り入れていた施設で、1997(平成9)年に取水機能が二風谷ダムへ移行したため役目を終えました。川の対岸には、アイヌの伝承が残るおわん型の2つの山が見えます。この山と周辺の山林は、現在まで林業生産が計画的に行われているエリア。この視点場では、平取町の2大産業、農業の礎とアイヌ文化と共存する林業の姿を同時に見渡せます。

**65 額平川中流域の農村景観**  
**70 沙流頭首工**




**11 ビラウトゥルナイ区域の文化的景観**  442 617 279\*02 (駐車場)



沙流川の対岸に見える山並みに注目。2つの稜線部分の谷間はペンケピラウトゥルナイ(アイヌ語で上流の産の間の川の意)、パンケピラウトゥルナイ(下流の産の間の川)と呼ばれ、ピラウトゥル(産の間)が平取の語源と言われています。この一帯の山林は、明治時代から昭和時代中期にかけて畜産と林業を同時に進行混交林(こんぼくりん)経営が行われ、意図的に伐採しなかった樹木や林間放牧で用いられた木柵などが現在も残っています。

**31 びらとりの語源について**  
**32 オキクルミ伝承のなかのチノミシリ**





**二風谷の森林とアイヌ文化振興**

**旧マンロー邸**

**二風谷コタン**

**モデルルート**

**A** **二風谷コタンを徒歩で満喫コース**

二風谷コタンと周辺を歩いて巡り、アイヌ文化を手軽に体感できるコースです。二風谷コタンの駐車場で車を止め、近くの重要文化的景観を巡るとともに、アイヌ関連施設での見学や体験なども楽しめます。

⑤⑥ 二風谷コタン(駐車場) → ⑦ 伝統的家屋チセ群(見学) → ⑩ 平取町立二風谷アイヌ文化博物館(見学) → ⑦ 二風谷の森林とアイヌ文化振興 → ③ 沙流川歴史館(見学) → ⑧ 旧マンロー邸 → ④ コタン内のカフェ(休憩) → ① 二風谷工芸館(買い物)

※二風谷アイヌ匠の道を歩き、④ 萱野茂二風谷アイヌ資料館や⑩ 平取町アイヌ工芸伝承館(ウレシバ)へも足を延ばせます。  
【予想所要時間/3時間】【移動時間/30分(徒歩)】



**二風谷周辺おでかけMAP**

**文化的景観とは?**

「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」という文化財の一つで、2005(平成17)年に文化財保護法の改正によって新たに定められました。平取町内には、現代まで続くアイヌ文化のさまざまな要素と、開拓期以降の農業などの産業に伴う土地利用の様相が重なり合う景観が各所に広がっています。これらの景観は文化財として特に貴重な価値があると国に評価され、2007(平成19)年7月に全国3番目の「重要文化的景観」として、「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」が選定され、2016(平成28)年に第二次、2018(平成30)年に第三次の追加選定が行われています。

**視点場とは?**

文化的景観を安全にゆっくり眺めることができる場所。近くには対象となる景観に関する詳しい説明を記した解説板もあります(一部離れた場所に設置されています)。視点場は駐車場至近のところもあれば、駐車スペースから数分歩く場所もあります。各場所の詳細マップにてご確認ください。



# 北海道平取町「文化的景観」おでかけMAP




重要文化的景観  
アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観  
平取町  
文化庁

**大切な地域の風景を見つけにこう**

重要文化的景観(国選定)  
アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観  
Cultural landscapes of the Saru Valley formed by the Ainu tradition and reclaimed in recent times  
重要文化的景観選定区域


**文化・教育施設**


② **二風谷コタン**  442 799 197\*55 (第1駐車場)


⑩ **平取町立二風谷アイヌ文化博物館**  
住所 平取町二風谷55  
電話番号 01457-2-2892  
開館時間 9:00~16:30  
休館 11月16日~4月15日の毎週月曜(12月16日~1月15日は1か月間休館)  
料金 大人(高校生以上)400円、小中学生150円、小学生未満無料  
※団体(20名以上)各50円割引

③ **沙流川歴史館**  
住所 平取町二風谷227-2  
電話番号 01457-2-4085  
開館時間 9:00~16:30  
休館 月曜(月曜が祝祭日の場合は翌日)、12月30日~1月5日  
料金 入館無料

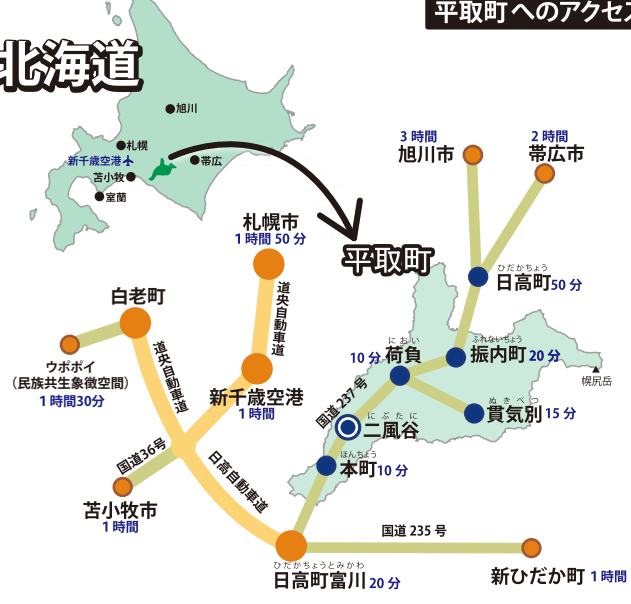
④ **二風谷工芸館**  
住所 平取町二風谷61-6 平取町アイヌ文化情報センター内  
電話番号 01457-2-3215  
開館時間 9:00~17:00  
休館 12月31日~1月5日  
料金 入館無料

⑤ **平取町アイヌ工芸伝承館(ウレシバ)**  442 799 112\*36  
住所 平取町二風谷77-14  
電話番号 01457-3-7501  
開館時間 9:00~17:00  
休館 月曜(月曜が祝祭日の場合は翌日)、12月31日~1月5日  
料金 入館無料

⑥ **萱野茂二風谷アイヌ資料館**  442 769 835\*10  
住所 平取町二風谷79  
電話番号 01457-2-2215  
開館時間 9:00~16:30  
休館 なし(11月16日~4月15日は事前連絡)  
料金 大人(高校生以上)400円、小中学生150円、小学生未満無料  
※団体(20名以上)各50円割引

⑦ **旧荷負小学校開拓財産展示施設**  567 039 143\*61  
住所 平取町字荷負ア-3  
電話番号 01457-2-2892(平取町立二風谷アイヌ文化博物館)  
開館日時 月・水・金曜(祝日以外)、9:00~12:00(5月~11月末まで)  
料金 入館無料

**平取町へのアクセス**



車(自家用車・レンタカー) ※<>内はおおよその所要時間

- 札幌から <1時間50分>  
道央自動車道⇒日高自動車道(日高富川IC下車)⇒国道237号
- 新千歳空港から <1時間>  
国道36号⇒日高自動車道(日高富川IC下車)⇒国道237号
- 苫小牧から <1時間>  
国道36号⇒日高自動車道(日高富川IC下車)⇒国道237号
- 帯広から <2時間>  
国道274号線(日勝峠)⇒国道237号

**マップコードについて**

マップコードは、日本全国の場所を簡単な数字を使って表記しているコードナンバーです。マップコードにコード対応したカーナビや、携帯電話などを使えば、簡単にいきたい場所が分かります。「文化的景観」おでかけMAPに掲載されている■の後に続く9桁の数字を入力してご利用ください。

発行:2021年3月  
**平取町教育委員会文化財課**  
平取町立二風谷アイヌ文化博物館内  
〒055-0101 北海道沙流郡平取町二風谷55  
Tel:01457-2-2892 / Fax:01457-2-2828  
http://www.town.biratorikawa.hokkaido.jp/biratorikawa/

**平取町文化的景観解説シートをダウンロードしてさらに学びを深めよう!**  
北海道平取町文化的景観解説シート(ZIP) [87MB]





# 大切な地域の風景を見つけにいこう 沙流川流域おでかけMAP



- No** 解説板所在地
  - 視点場
  - 〒** 郵便局
  - ガ** ガソリンスタンド
  - ◎** 役場
  - 山** 山の駅
- モデルルート**
- B** コース
  - C** コース
  - D** コース



## モデルルート

- B** **沙流川流域のアイヌの伝承にふれる**  
 アイヌの世界観と精神文化に触れられるドライブコースです。アイヌの人々に生活文化を教えたといわれる文化神オキクルミカムイに関する伝承地や、アイヌの人々が大切にしている場所を巡ります。  
 17 ピラウトゥルナイ区域の文化的景観 → 9 アイヌの伝承とイオルの森 → 5 オブヌプリ → 4 沙流川流域にみるアイヌの伝統的世界観 → 3 オキクルミのチャシ及びムイノカ → 7 幌尻岳(ポロシリ)  
 【所要時間/1時間30分】【移動時間/45分】【距離/28km】
- C** **アイヌ文化から近代開拓の歩みをめぐる**  
 平取町の近代開拓の歴史の一端とアイヌの伝承地を巡るドライブコースです。町中心部から各地へ赴き、最後は二風谷コタンでじっくり見学。多様な文化が織り重なる平取町のディープなルートです。  
 17 ピラウトゥルナイ区域の文化的景観 → 10 沙流川流域の産業景観 → 9 アイヌの伝承とイオルの森 → 7 二風谷の森林とアイヌ文化振興 → 10 旧荷負小学校開拓財産展示施設  
 【所要時間/2時間】【移動時間/54分】【距離/22.6km】
- D** **国道237号のドライブ途中にふり寄り道**  
 日高道の富川ICから日高町や十勝、トマムや富良野方面へ向かう途中の寄り道にピッタリなコースです。国道237号沿いのスポットを中心に廻り、ドライブついでにアイヌの精神文化や平取町における代表的な景観に手軽にふれることができます。  
 10 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 → 8 旧マンロー邸 → 5 オブヌプリ → 2 すずらん群生地  
 【所要時間/2時間】【移動時間/30分】【距離/26.8km】

## 平取町かわまちづくり計画による沙流川沿いの景観視点場MAP



- A** **平取地域イオル再生事業の「水辺空間」** 442 617 279\*02  
 平取町では、自然と共生していたアイヌの人々の伝統的な生活の場であったイオルを再生する試みを行っています。中でもこの水辺空間では、主に沙流川の河川敷を利用して水生植物のなかでも建築素材であるヨシやガマ、食糧としていたワヤヒエなどが栽培されています。
- B** **本町～小平地区の文化的景観** 442 587 489\*28  
 平取(びらとり)の語源は、ピラ(pira=崖)ウトゥル(utur=の間の)というアイヌ語です。視点場からは語源のベンケ(上)とバンケ(下)の二つ並んだピラウトゥルナイという「ピラ」地名の重要なスポットが見えます。また、平取大橋の左岸のたもとには「チノミシリ=我ら祈るところ」も立地しており、精神文化の重要拠点でもあります。
- C** **去場地区の文化的景観** 442 492 427\*61  
 沙流川をはさんだ対岸には険しい崖が並び、「フリ」という巨大な怪鳥がすんでいたとの伝承が伝わっています。また、トバツウミ(夜盗)と妖刀の伝説は紫雲古津や去場地区を舞台にしており、国道沿いにはチャシ跡が点在しています。このような特徴的な地形や歴史的事実を元に生まれた伝承を視点場で紹介しています。
- D** **紫雲古津地区の文化的景観** 442 460 710\*77  
 この視点場周辺は、かつての水辺の自然環境に思いをはせることができるエリアです。明治後半期の沙流川下流域の状況は、大きな蛇行や三日月湖、沼地、荒野、中島状の高みなどが混在しており、多様な生物が共存していました。また、周辺にはアイヌ民族の伝説・伝承や遺跡などが点在しており、多様な文化遺産が語りかけられます。
- E** **オキクルミの伝承地「ハヨピラ」** 442 617 279\*02  
 沙流川流域のアイヌの人々に生活文化を教えたという文化神オキクルミカムイが降臨した場所という伝承の地です。昭和41(1966)年にセレモニーが開かれ、北海道でも有数の観光地として栄えました。その後平取町へ移管されハヨピラ自然公園として整備されましたが、施設の老朽化等のため閉鎖されました。
- F** **荷菜～本町の文化的景観** 442 555 314\*08  
 昭和の時代に平取町の農業の一大産業拠点となった荷菜地区周辺。現在平取ならではの田畑やビニールハウスでのトマト栽培群をこの視点場で見ることができます。また、川の対岸は「北海道日高地方における里山的景観」として重要文化的景観に選定された、地域の人々の生活と生業に密着し関わりをもってきた森林・河川空間です。